

新興国レポート

インド7~9月期実質GDP 4期連続プラス成長

実質GDP額は7~9月期としては過去最大を記録

- ▶ 2021年7~9月期の実質GDP（国内総生産）成長率は前年同期比+8.4%となった。
- ▶ 実質GDP全体の約5割を占める個人消費や約3割を占める総固定資本形成が回復をけん引。
- ▶ R B I（インド準備銀行）の予想を上回る成長率となったものの、オミクロン株に対する警戒感等から、発表日当日のインド株式やインドルピー（対円）は前日比ほぼ横ばいで推移。

(1) 4期連続のプラス成長を記録

- インド政府が11月30日発表した2021年7~9月期実質GDP成長率は前年同期比+8.4%と4~6月期の同+20.1%からは減速したものの、4期連続でプラス成長を記録しました（図表1）。R B Iが10月会合で示した予想値同+7.9%を上回りました。7~9月期の実質GDP額は35.73兆インドルピー（約54兆円）と、同期間としては基準年が改定された2011年以降で最も大きくなりました。
- 今年5月に一時40万人近くに達していた1日当り新規感染者数（7日間平均）がその後大きく減少し（図表2）、都市封鎖の解除により経済活動の正常化が進んだことが景気拡大の背景にあるものと思われます。

(2) 個人消費が全体を押し上げ

- 7~9月期の成長率を需要項目別にみると、実質GDPの約半分を占める個人消費が前年同期比+8.6%、約3割を占める企業の設備投資活動等を示す総固定資本形成が同+11.0%と回復のけん引役となっています。また、世界経済の回復で輸出が同+19.6%となる一方、国内消費量の約8割を輸入に頼る原油の価格高騰で、輸入は同+40.6%と輸出を上回る伸びとなっています。産業部門別では、農林水産業が同+4.5%、製造業が同+5.5%、サービス業が同+10.2%と、全部門がプラス成長となっています。

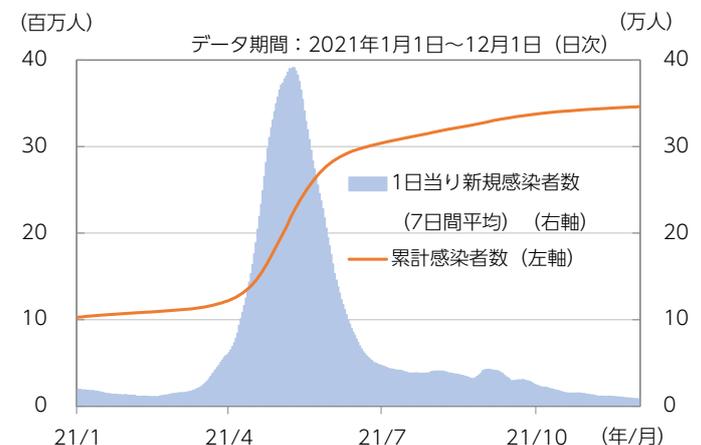
(3) インド株式やインドルピーの動向

- 11月26日に南アフリカでオミクロン株が確認されたこと等によりインド株式は調整色を強めつつあります。また、相対的に安全な通貨とされる円への資金シフトでインドルピーは対円で大きく下落しています（図表3）。GDP発表日当日の株式及びインドルピーは前日比ほぼ横ばいで推移しており、成長率がR B Iの予想を上回ったことの影響は限られたようです（図表3）。当面、株式やインドルピーはオミクロン株の感染力等を巡り値動きの荒い展開になるものと思われます。

図表1：インド実質GDP成長率の推移



図表2：インドの新型コロナウイルス感染状況



図表3：インド株式とインドルピーの動向



出所) 図表1~3はC E I C、ブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメントが作成

【当資料に関する留意点】

- 当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。実際の投資等に係る最終的な決定はご自身で判断してください。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料のいかなる内容も将来の市場環境等を保証するものではありません。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料に投資信託のグラフ・数値等が記載される場合、それらはあくまでも過去の実績またはシミュレーションであり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。
- 投資信託は投資する有価証券の価格の変動等により損失を生じるおそれがあります。
- 投資信託の手数料や報酬等の種類ごとの金額及びその合計額については、具体的な商品を勧誘するものではないので、表示することができません。

<設定・運用>



ニッセイアセットマネジメント株式会社

商号等：ニッセイアセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者

関東財務局長（金商）第369号

加入協会：一般社団法人投資信託協会

一般社団法人日本投資顧問業協会

ニッセイアセットマネジメント株式会社

コールセンター 0120-762-506（受付時間：営業日の午前9時～午後5時）

ホームページ <https://www.nam.co.jp/>